

広がり始めた地域づくり活動事業	2
地域づくりクローズアップ	4
地域づくりステップアップ研修会	6
地域づくり活動事業募集	7
投稿ひろば	8
地域づくり協議会視察研修会	12



DECEMBER.2011 <http://www.town.koge.lg.jp>



「いぶきの里」のお客様

11月10日(木)に、九重町飯田地区まちづくり協議会の皆さんが、上毛町地域づくり協議会の視察研修に訪れました。

詳しくは裏面で



上毛町地域づくり協議会

いぶきの里 視察第一号

来町した九重町飯田地区まちづくり協議会は、昨年度、まちづくりの拠点として立ち上げられました。まだ組織目標や活動指針などが明確ではなく、地区全体の取り組みができていないようです。そのため、研修の目的は、集落あるいは地区単位で地域づくりに取り組んでいる先進事例を学ぶことで、今回は「下唐東区地域おこし会」が話題の中心となりました。

大平樂の一室を会場とし、地域づくり事業など一連の説明を行った後、いぶきの里で施設見学を兼ねて情報交換を行いました。



はじめに、上毛町の概要と地域づくり活動事業など制度的な説明を企画情報課の担当者が行いました。次に、地域づくり協議会の山下会長から協議会の基本理念や組織目標等について説明しました。特に、山下会長は、近年の若者の活躍について「これまで、思うように活躍する機会に恵まれなかった若い人たちも、地域づくり活動事業の中では、若者同士が集まり、何にでもチャレンジすることができるようになった。若者が動けば、それを高齢の方が応援するといった良い連鎖反応も起きている」といったプラスの効果が生きていることを強調しました。

続いて、下唐東区地域おこし会の活動については、宮本工さんが説明しました。宮本さんは、郷土史等にも造詣が深く、文化財保護の分野でも活躍しています。今回も九重町の方々が来町すると聞いて、九重町誌に目を通したそうです。

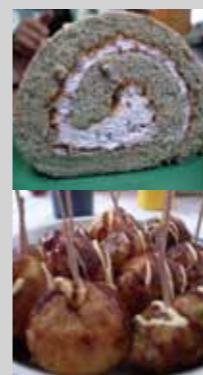
宮本さんが進める地域おこしのポイントは、集落あるいは地域のみならず、集落内や地域のみなさんが挙って参加することにあります。例えば、集落内の営農組織をはじめ、農地水環境保全隊、老人会、子ども会などが一体となって地域おこしに参加することが大切だということです。宮本さんは「集落で活躍する食生活改善推進協議会は女性の協力があってからこそ、高齢者にも高齢者の仕事(役割)があるはず。集落全体で上手くやることが大切である」といいます。そして、「これからは、単なるボランティア活動だけではなく生産活動が必要で、集落が(経済的に)生み出すものを持たなければならない。そこには、手づくりと工夫が大切で、組織の役員は時代の変化に敏感でなければいけない」と活動継続のための方法論について言及しました。最後は「笑顔をつくるためには、みんなで集まってみんなでつくること。心地よく暮らせるコミュニティづくりを目指したい」と締め括りました。

九重町のまちづくり協議会は(昭和30年の合併前の)旧町村4つを単位とし、地域内のあらゆる団体が参加しています。しかし、十分な議論がなされる以前に協議会という枠組だけが先にできてしまい、構成員は戸惑いが隠せません。研修会の中で、「これからの地域づくりに熱が要る。(九重町にも)住民ワークショップのような仕掛けづくりが有効ではないか」という声も聞かれました。



■ご来町された九重町の皆さん、ありがとうございました。この研修を機に、上毛町と九重町の地域づくりのネットワークが広がっていくことを期待しています。

いぶきの里 上毛町大字下唐原1649-1 TEL/FAX 0979-72-4555



今年3月に設立した上毛町地域づくり協議会。早くも外部からの視察を迎え入れる運びとなりました。わずか8,000人規模の小さな町で27もの団体が集結し、力を合わせて町を良くしていこうというスケールの大きな話は、自他ともに誇れる新しい町づくりの形となっています。

もし「上毛町らしさとは」という問いかけがあったとき、すぐに答えが出せる人がいるでしょうか。地域づくりを考えるとき、実情を把握せずに単に他所の成功事例を表面的に真似しただけでは、かえって衰退を招く場合もあるといわれています。町には町に相応しいやり方があるということです。すごいことに、上毛町には地域のことを大切に思い、日々奮闘している団体がたくさん存在しています。こうした地域で活躍している人たちの思いが叶うように支えていくこと、そして、楽しみながら活動を継続していく仕組みができたとしたら…。その先に「上毛町らしさ」の真髄が見えてくるのかもしれない。

来年もどうぞよろしくお祈りします。

編集後記

